

鑄年会 ベトナム視察

—視察レポート—

- 日程 平成 30 年 10 月 18 日～21 日
- 訪問先 An Khánh 誘導炉メーカー
Metal One Vietnam
Dat Viet Hai Yard
DaHoi 村(伸鉄村)
インフィニティ日本語センター
- 視察目的 販路拡大、鑄年会交流

目 次

はじめに	2
鑄年会ベトナム視察参加者	2
視察旅程	3
<1 日目>	
視察① An Khánh (アンカン)	4
視察② MetalOne Vietnam	5、6
<2 日目>	
視察③ DAT VIET LOGISTIC 社・Hai Phong ヤード	7
視察④ DaHoi 村 (ダホイ村・伸鉄村)	8
<3 日目>	
視察⑤ ベトナムインフィニティ進歩社 (日本語学校)	9
参加者の感想	10～12
視察場所での鑄年会員 (写真)	13、14

平成 30 年 10 月 30 日 (水)
鑄年会 副会長
神鋼商事(株) 山口一樹

はじめに

日本スクラップの“販路拡大”ということであれば、本来はインド・バングラデッシュ等が販路拡大として有力な国である。

しかし日本は鉄スクラップの輸出を本格的にはじめて中国・韓国が輸入から輸出に切り替わりだした現在まで約 35 年間輸出し続けて来た。そしてベトナムへの輸出は約 15 年前からはじまり本格的に輸出しだしたのは約 3 年前。中国・韓国と同じように約 35 年間輸出し続けるということは簡単ではないが、既存の輸出先に輸出し続けるということは重要であり、輸出し続けることも販路拡大である。

これからベトナムへ 10～20 年輸出し続けることが可能なのか。現地の鉄鋼需要やスクラップへの要求を直接確認することを目的とし、視察を行った。

鏑年会ベトナム視察参加者

	会社名	本社所在地	部署名	役職	氏名
1	石井商事(株)	埼玉県八潮市鶴ヶ曽根943番地	製鋼原料部	部長	石井 伸夫
2	栄興業(株)	大阪府大東市曙6-18		取締役	下平 祐平
3	神鋼商事(株)	神奈川県平塚市大神3341		常務取締役	山口 一樹
4	(株)カネタ	東京都大田区本羽田1-26-16	営業部		金田 直也
5	(株)ヤマシタ	東京都大田区北糺谷2-6-8		取締役	山下 耕平
6	影島興産(株)	神奈川県横浜市神奈川区恵比寿町7-6		取締役	影島 慶明
7	(株)青木商店	埼玉県新座市中野1-1-28		工場長	長谷川 智昭
8	クリーンテックシオガイ東京(株)	東京都足立区宮城1-6-15		常務取締役	塩貝 大
9	田口金属(株)	東京都新宿区中落合1-20-4	営業部	課長	齊藤 孝幸
10	(株)富澤商店	千葉県千葉市花見川区幕張本郷2-2-20	営業本部	取締役 営業本部長	富澤 裕貴
11	丸和商事(株)	神奈川県横浜市鶴見駒岡2-12-26	営業部	課長	水野 純平
12	(株)やまたけ	東京都足立区西新井5-35-13		社長付	畠山 正寛
13	前田金属工業(株)	東京都立川市柴崎町6-19-28		代表取締役	前田 聡一郎
14	(株)日刊市況通信社	東京都千代田区東神田1-5-5マサキビル4F	東京本社編集部		地下 泰裕
15	エムエム建材(株)	東京都港区東新橋1-5-2汐留シティセンター18F	製鋼原料第一部	課長代理	柳 憲作

視察旅程

No.	月日	都市名	発着時間	交通機関	適 要	朝	昼	夜
1	10月18日 (木)	羽田空港 東京(羽田)発 ハノイ着 ホテル着 ホテル発	07:00 08:55 12:25 13:30 14:00 15:30 16:30 17:30 18:00 18:30 19:00 21:00	NH#857 専用バス 専用バス	羽田空港国際線ターミナル集合。 各自チェックイン後、手荷物検査、出国審査 空路、全日空にてハノイへ (所要時間:5時間30分) 空港到着後、企業視察へ。 ■企業視察① 【An Khanh:誘導炉メーカー】 ■企業視察② 【Metal One Vietnam】 ホテル着後、チェックイン。 チェックイン後、夕食会場へ。 夕食:市内レストラン(ベトナム料理) 夕食後、ホテルへ。 ＜ハノイ:Fortuna Hotel Hanoi泊＞	—	●機内	○ベトナム料理
2	10月19日 (金)	ホテル発 ダーホイ村着 ダーホイ村発 ハノイ着 ハノイ発 ハイフォン着 ハイフォン発 ホテル着 ホテル発	08:30 09:30 10:30 11:30 12:30 14:30 15:30 17:30 18:30 19:00 21:00	専用バス 専用バス	朝食:ホテル内レストラン ダーホイ村へ向け出発(約50km/1時間30分) ■現地視察① 【伸鉄村視察】 昼食:市内レストラン(日本料理) 昼食後、ハイフォンへ向け出発(約110km/2時間) ■企業視察③ 【Dat Viet Hai Phong Yard視察】 ホテル着。 (休憩) 夕食会場へ。 夕食:市内レストラン(ベトナムフレンチ) 夕食後、ホテルへ。 ＜ハノイ:Fortuna Hotel Hanoi泊＞	○ホテル	○日本料理	○ベトナムフレンチ
3	10月20日 (土)	ホテル発 日本語学校着 日本語学校発 ハノイ市内視察 ホテル着 ホテル発	08:00 09:00 10:00 11:00 17:00 18:30 19:00 21:00	専用バス 専用バス	朝食:ホテル内レストラン 日本語学校へ向け出発(約35km/1時間) ■現地視察② 【インフィニティ日本語センター視察】 視察後、市内視察へ。 ★ハノイ市内視察ツアー(11:00～17:00) 昼食:市内レストラン(飲茶) ホテル着。 (休憩) 夕食会場へ。 夕食:市内レストラン(ベトナム料理) 夕食後、ホテルへ。 ＜ハノイ:Fortuna Hotel Hanoi泊＞	○ホテル	○飲茶	○ベトナム料理
4	10月21日 (日)	ホテル発 空港着 ハノイ発 東京(羽田)着	11:00 11:30 13:00 15:05 22:15	専用バス NH#858	朝食:ホテル内レストラン ホテルチェックアウト後、市内レストランへ。 昼食:市内レストラン(ベトナム料理) 空港着。チェックインへ。 空路、全日空にて帰国の途へ (所要時間:5時間10分) 羽田空港到着後、解散。	○ホテル	○ベトナム料理	●機内

鋳年会ベトナム視察（2018 年 10 月 18 日～21 日）

<1 日目：10 月 18 日>

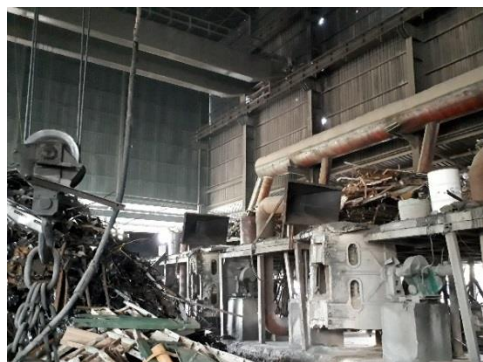
【視察① An Khánh（アンカン）】（視察対応：LUC 氏）

ハノイ市郊外ソクソンにある 2002 年設立の誘導炉メーカー。10 基以上の炉（1 チャージ約 50 分で 4 t）を保有し、月間およそ 1 万 t の粗鋼を生産。50m の圧延ラインで製品の形鋼（最大幅 130mm）を製造しており、一部ビレットの外部販売も行う。製品の出荷先は全量が国内。形鋼は J I S 規格を取得している。かつては日本や中国からビレットを輸入したこともあるが、生産能力を増強したことにより、現在は外部からの購入を行っていない。

原料となる鉄スクラップは月間 11,000～12,000 t 購入（歩留まりは 95%程度）。成分管理面から上級スクラップが中心でプレス形状が目立った。炉に投入するスクラップは最大 2 メートルまで可能。長尺物は自社でガス切やプレス機による圧縮を施し、炉前サイズに加工する。なお、隣接する第 2 工場には油圧シャーと破碎機も保有しているが、使用頻度は少なく、ガス切とプレスが中心。スクラップ加工の背景として、市中ディーラーに加工処理機械を保有する企業が少ない為、自社内で加工体制を整えている。オペ室のないホイストリモコン操作で荷降ろし、炉に供給と一日中稼働している状況。かつてはシンガポール、タイ、マレーシアなどからスクラップを輸入していたが、3 年前から全量国内玉でまかなっている。ヤードにはサッシや小型の条鋼類など、解体発生品が積まれていた。

下工程の圧延ラインは安全上の問題で見学は出来なかったが、圧延ロールを自社内で 2 基の大型旋盤を用いて加工している。

ダストや非鉄がほとんどない状態であったので、品質の高さを強く感じると同時にダストや雑品問題を抱えた日本産 H 2 は購入する姿は想像できない。



【視察② MetalOne Vietnam】（対応：向井英輝メタルワンハノイ支店長）

ベトナム基礎情報

国土面積は約 33 万平方キロメートル（九州を除く日本の面積に相当）。人口 9400 万 6 千人、人口は南部の主要都市ホーチミン（823 万人）と首都ハノイ（733 万人）の 2 都市が 3 位ハイフォン（198 万人）以下を大きく引き離している。人口増加率は年率約 1%、2055 年まで増加する見込み。平均年齢は 30.8 歳で日本と比較して若い。2018 年の実質 GDP 成長率は 6.60%。産業別構成はサービス業 40.9%、鉱工業・建設業 32.7%、農林水産業 16.3%。

2017 年の貿易額は輸出 2151 億^{ドル}、輸入 2130 億^{ドル}、収支 21 億^{ドル}。韓国系電子企業（主に携帯電話の部品）が主力工場を構えるなど、外資系企業の進出が進み、貿易黒字を下支えしている。マクロ面で外資投入は効果的だが、競争が激化する懸念もある。

2018 年は米中を中心とした貿易摩擦が生じているが、ベトナムへの影響は限定的（各国の投資先が中国からベトナムへシフトするなど『チャイナプラスワン』を再び見直す動きとなっている）。

ベトナム鉄鋼関連情報

2017 年の鋼材生産量は 1130 万 2 千^{トン}（前年比 30.6%増）で、初めて 1000 万^{トン}を突破。鋼材輸入は 1502 万 2 千^{トン}（同 13.9%減）、輸出は 468 万 7 千^{トン}（同 24.0%増）。鉄鋼輸入国だが、近年は国内生産能力が増加していることから、輸入が減少傾向にある。一方で、主にアセアン向けの輸出が増加。今後も輸出ドライブが継続する可能性がある。

2017 年の見掛け消費量は同 2163 万 7 千^{トン}（同 3.1%減）でアセアン地区において最多数量。丸棒や薄板が中心でともに約 1000 万^{トン}ずつ。ベトナムは高層ビルや一般家屋においても RC（鉄筋コンクリート造）の割合が多い。なお、昨年は前年に対して減少したが、2018 年は再び増加に転じる見通し。

昨年 5 月にベトナム中部のフォルモサ・ハティン・スチール社の第 1 高炉が稼働、今年 5 月には第 2 高炉が稼働し、年間 700 万^{トン}規模の生産ミルが誕生。今後は需給バランスの変化が起こる上、ASEAN 内では関税がかからないベトナム産の建材がアジアを中心に建材の輸入国から輸出国になる可能性も高まる。

高炉、電炉、誘導炉のいずれも新設計画があり、生産能力は増加する見通し。いまは大型高炉を新設する状態ではなく、リサイクルという観点から電炉の伸びが期待される。ただ、電炉ミルがどのように競争力を持つかが課題。建材の製造コストはミニ高炉と 50 億^{ドル}の差が生じている。電力事情も懸念され、2020～2021 年には電力需要が供給を上回るとされる。

ベトナムにおける主な電力は火力発電。しかし、政府の環境対策の観点から石炭ではなく天然ガス（LNG）発電でなければ許可がおりず、新規の発電所の案件は進んでいない模様。

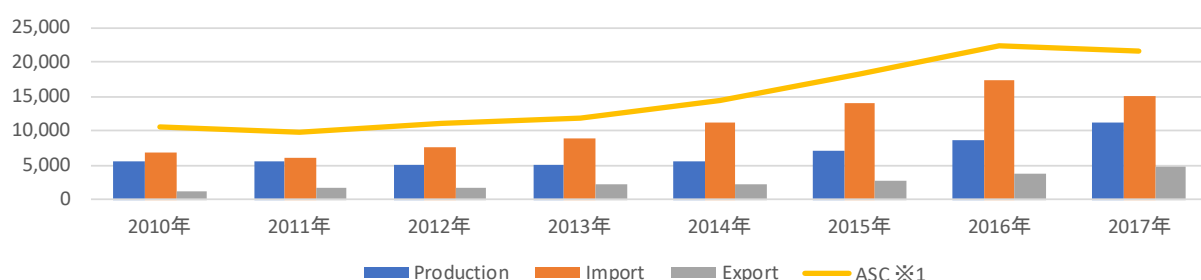
スクラップ

ベトナムミルの需要が増加する一方で、輸入ライセンスの取得が難しくなっているため、国内発生スクラップの需給は引き締まっている。「需給状況から勘案して国内発生は大きく増えていないのではないか」（劉氏）。環境面での対策からスクラップ輸入の規制強化が進んでおり、将来的に輸入ライセンスは現地ミルのみが保有することになる見通し。輸入鉄スクラップについては、規定によりダスト混入割合を 1% 以下に抑える必要がある。今年 8 月には南部ミルが韓国から輸入した鉄スクラップがシップバックされる事例も発生した。誘導炉ミルは品質管理面から上級スクラップを使用。「輸入スクラップは使いにくい」といい、地場発生品などを割安で購入している。誘導炉製ビレットは電炉製と比べて品質が落ちるとされるが、レードルフアーネス（LF：二次精錬）を施せば成分調整が可能。

※現地企業視察中の情報：国内鉄スクラップ価格は1トンあたり4万2000円程度。

その他

この3年間で中間層、富裕層が増えて、貧富の差が激しくなっている。街にはバイクが多いが車の台数が増えてきている。ベトナム北部と南部で文化が異なり、北部は有名大学、政治、学問がメイン。地理的にも中国からの鉄鉱石の流通メリットがある為、価格変動の多いスクラップに比べてコスト優位性がある為、高炉が北部よりに集まっている。南部は商売がメインの事なムードで、天然資源が豊富な為、電炉が多い。中部は土地・人件費が安い為、誘導炉が多い特徴がある。ベトナムは地震が起こらないため、RCの建築物が多い（ハノイ市内の72階建てのビルもRC）。



単位：千トン	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	前年比
Production	5,659	5,470	5,049	5,123	5,657	7,199	8,657	11,302	30.6%
Import	6,728	5,981	7,568	8,791	11,055	13,881	17,451	15,022	-13.9%
Export	1,281	1,754	1,661	2,145	2,271	2,826	3,780	4,687	24.0%
ASC ※1	10,572	9,698	10,956	11,769	14,441	18,254	22,328	21,637	-3.1%

鋼材生産は熱間圧延ベース) 出所 :SEAISI 2018 Steel Statistical Yearbook

※1ASC : Appearance Steel Consumption 鋼材見掛消費

◆2017 年総括◆

GDP 成長率 : 6.81% (政府目標の 6.7%を達成し前年比 0.6 ポイント増、輸出・輸入とも前年比 20%増)
 鋼材見掛消費 : 2,164 万トン (前年比 3%減、条鋼類 1,049 万トン (前年並み)、鋼板類 1,141 万トン (5%減))。
 前年マイナスの主な背景は公共インフラ投資の導入遅延、政府予算プロジェクトの執行遅延、建設資材の高騰による購買見送り、鋼材価格の上昇
 課題 : 450 万トン以上の合金鋼輸入、約 200 万トンの線材、伸線輸入、前年比 30%増となる約 190 万トンのカラー鋼板輸入。鋼材輸入関税が自由化されているため、国内産業を保護する措置が必要。

◆2018 年見通し◆

- ・政府は経済の安定、インフラ抑制、新たな経済成長モデルの構築を目指し、GDP 成長率 6.7%、輸出の伸び率 7~8%、貿易赤字を 3%未満、CPI を 4%以内とする目標を設定。
- ・2018 年 Q1 の GDP 成長率は 7.38%と過去 10 年で最大の伸びとなり、国内経済は好調なスタート。
- ・2018 年 Q1 の鋼材生産は 577 万トン (熱延コイルは 63 万トン) と前年同月比 25%でスタートし、2018 年の鋼材見掛消費は前年比 4%増を期待する。課題は原料価格の変動と世界的な鉄鋼供給過剰、米国 232 条に関連する保護貿易の高まり、また、関税自由化が進む中、国内鉄鋼業を守るために貿易救済措置の活用が必要。

参考 : VSA が SEAISI 会議 (2018 年 6 月) で発表したカントリーレポートの概要

<2日目：10月19日>

【視察③ DAT VIET LOGISTIC 社・Hai Phong ヤード】（視察対応：バウ副社長、ザン工場長）

設立は10年前。鋼材の取り扱いを経て3年前にスクラップ事業を開始。ハイフォンとベトナム南部カントー市にヤードを構え、月間2万トンの鉄スクラップを取り扱っている。仕入先は200以上。

訪問したハイフォン市に位置するハイフォンヤード（2.3ヘクタール）の取扱いは月間1万1000～2000トン。市中回収事業者を中心に一部発生工場からもスクラップを仕入れ、ホワファット、VIS（共英製鋼グループ）、シェンリーといった北部ミルに出荷している。長尺物と炉前との値さは0.5円/kg、相場はメーカーへ持込で41～42円/kg。スクラップ輸送車は10キロメートル圏内の近場であれば10トンの車を使用。中長距離輸送はコンテナを用いる。出荷先メーカーでは10段階の検収で価格が決定。ダスト引きは無い。

ヤードには加工設備を持っていない。加えて天井クレーンはあるものの、マグネット機がなくホイス操作にて手作りのフックを用いて長距離コンテナへ積込を行っていた。現在、油圧シャー設置の検討を進めており、薄物向けの小型シャー（中国製）の導入を計画。日本製油圧シャーも検討を進めている。

積載したヘビースクラップの中にあるダスト混じりのスクラップについては、人力や機械を使ってピッキング作業を行うなど歩留まりの向上を図っている。視察当時は数人の作業員が手作業での選別を行っていた。処理量は1日1トンほど。ダストは費用を払い処理するが年間数トンほどしか発生しない。

また、上級スクラップについては別途倉庫を近隣に構えており、カントーヤードからの移送分と併せて1,000トンをストックしている。

意見交換の場では、バウ副社長から「ベトナムではスクラップ事業者の団体が無く、組合を作りたい。日本ではどのように組織化していったのか」、「日本のようにスクラップ事業を発展させるためにはどうすればよいか」との質問を受けた。従業員は寮・食事付きで月約5万円の給料で平均よりも高い賃金を払っているとの事。



【視察④ DaHoi 村（ダホイ村・伸鉄村）】（対応：飛び込み訪問）

小さな工場が軒を連ね、家族単位で鉄鋼再生事業を行う。世帯（事業所）数は推定で 100 以上 1 件あたり 10～30 トン/日の製造。村には台貫を商売としている場所も散見しており、ひと昔前の鉄鋼団地という印象を受ける。視察先の一角では溶解（誘導炉）によるビレット製造、圧延によるローグレードの条鋼類の製造など工程ごとに事業者が分かれていた。発祥時期は不明だが「3～4 世代は続いている」という。

尋ねた誘導炉事業者（従業員 11 名）は 1 日 6 トン、月間で 180 トンのビレットを製造する。電力事情により操業は夜間。日中は炉を止めている。

隣接する圧延事業者では、使用済み丸棒からワイヤーを製造。加熱炉の熱源には石炭を使用。加熱した鋼を引き伸ばす工程では機械ではなく手で加熱した鋼を伸ばしていた。

村の道路は池に近いような水たまりが広がり、電信柱に目を向けると配線が乱雑している。また側道にはさまざまなゴミが散乱しており環境対策が全くなされていない無法地帯のようにも見受けられた。

訪問先圧延事業者のコスト（トンあたり）

- ・スクラップ価格 ⇒ 40,000 円
- ・ビレット（見た目は地条鋼）仕入れ価格 ⇒ 55,000 円
- ・圧延コスト ⇒ 5,000 円
- ・製品販売価格 ⇒ 62,500 円 ※1 日 50 トン、月間 1500 トンの取扱い



<3日目：10月20日>

【視察⑤ ベトナムインフィニティ進歩社（日本語学校）】（対応：グエン・タン・ハイ社長、金山隆司副社長、他）

来日する前の技能実習生を対象としたハノイ市の日本語学校。日本政府は外国人研修生の受け入れを業種単位で指定しているが、金属リサイクル事業は対象ではない。労働力不足が深刻化する中、鉄リサイクル工業会として取り組む必要に迫られる可能性を考え、今回の視察先に加えることとなった。

設立は2012年で、昨年末から現在の経営体制で運営している。校舎は軍の施設を使用。現在は78名（18～30歳）がレベルごとに分かれて受講する。期間はおよそ半年。卒業時には日常会話レベルの語学力を取得する。校舎内には寮もあり、生活においても日本式を学ぶ。6カ月の期間の学費は\$550（6万円ほど）。生徒はベトナム中部～北部から集まり、農家などの出身者が多い。金山副社長いわく、富裕層の若者はヨーロッパやカナダ、オーストラリアに留学する傾向にあるという。

日本人的な仕事の心構えやルール、よく見かける標識などが壁に貼ってあった。毎朝運動や標語の音読をするなど規律正しい生活をしている。研修制度により来日するベトナム人は、技能を身に着けるというよりは出稼ぎ感覚とのこと。教育や来日費用などを家族親戚から借金して捻出し、日本の労働で2年ほどかけて元を取る。「失踪しない」という標語があるのは、3年の実習期間が終了する直前に、失踪して不法就労しようとする人が多いため。

教室訪問の際は生徒から「日本人はベトナムについてどう思いますか？」「富士山には登れますか？」「日本ではサッカーが人気ですか？」など積極的な質問を受けた。

※注＝日本政府はベトナム人の研修生として受入が可能な業種を指定している。金属リサイクル事業は対象ではない。



参加者感想

＊

今回の視察旅行を通して各会員同士深く交流出来たと感じた。食事の際も毎回意識的に普段交流が少ない方と関り、また全体交流の場を設けることができた。今後の鯖年会の定期勉強会において活発な意見交換、議論が出来るのではないかと期待する。

＊

街はいくらか高層建築も建っているが、まだ発展途上という印象。見学した範囲においては、スクラップ関係では機械化がまだ進んでおらず、これから更に様相が変わってくるのではと感じた。ベトナムのスクラップはダストも雑品のようなものも一切見かけず、品質面では日本屑は勝負ができない。ダストや雑品の混入を大幅に無くさなければ、誘導炉は日本屑には手を出さない。日本屑を売るためには電炉の生産量拡大を期待したいところだが、電炉のさらなる発展は簡単ではない印象を受けた。理由としては電力事情、高炉・誘導炉に対する競争力、環境面での規制があげられる。特に見学した北部は政府が近く、規制に敏感なところがあるとのことで、可能なら南部でどのように異なるか視察に行きたいと思う。また今回の視察先は日本で見られない誘導炉やベトナム屑の間屋となり、日本屑を扱っている会社が日本屑をどう思っているかを直接聞く機会が得られなかったのが残念である。

＊

訪問する際に、ベトナムの鉄鋼需要は今後伸びていくので、スクラップの購入はかなり伸びていくのではという考えでいましたが、今回のベトナム視察を通して今後スクラップ納入を伸ばすには、クリアすべき課題がかなりあるのではと感じました。

＊

メタルワン現地法人でも拝聴した通り国土面積も人口も日本のそれに似通っていて平均年齢 30 歳、GDP 成長率 6 パーセント超ということで想像上ではありますが日本の 1960 年頃のエネルギーだった時代に似ているのか、その雰囲気を感じることが出来ました。又、向井所長がおっしゃっていたよう非常に親日的な国と感じました。

ベトナムでは 2030 年頃にはスクラップの輸出国になりえると予測しているが、それまでの後 10 年程も引き続き旺盛な鉄鋼需要となるでしょう、しかしながら去年、今年と稼働したフォルモサのような大型高炉（年産 700 万 t。高炉と電炉での販売格差が 50 ドルもあるらしい）や政府の環境対策（そもそも輸入鉄スクラップがどのような立ち位置になるか）やライセンスの付与など不確定要素も多く、実際に今後も旺盛な鉄鋼需要があったとしても日本材へのオファーが引き続き来るのかは全く楽観視できません。

しかし決めるのは相手方であって、オファーがありさえすれば彼らが満足する品質のスクラップを輸出しなければならないでしょう。今回見て聞いてきた事が我々の今年の勉強目的である販路拡大に今すぐつながるか答えはまだ見出せませんが、別の形でもベトナムのスクラップ業界の発展を後押しする事

は可能なのではと思いました。例えば、面会時にも質問のあった業界団体の設立、検収基準の統一、ヤード運営のノウハウや設備近代化のバックアップさらには鉄スクラップが尊い金属資源である事を国に理解してもらう事などが考えられます。

そのようなアクションを起こす時に一人や一社では力が足りなくとも我々が力を合わせれば何かしらのムーブメントが起きえます。今回の研修旅行は皆で同じ目標に向かい、勉強し現地へ赴き同じ空気を吸い「チーム鯖年会」としての絆が深まる非常に有意義な4日間であったと思います。僭越ではありますが関東のスクラップ業界の今後の発展の為にもなる研修だったと思いました。

＊

海外視察が初めての経験で実際に自分の目で見て感じ取れる事が多くあり、鯖年会に参加させていただいてから数か月しか経っていませんが、お忙しい皆様とこの短期間で親睦を深めることは日本でもとても難しい事と思います。私にとってとても貴重な時間を過ごせたと思いましたし、是非このような機会を継続していただき皆様と交流を深め若い世代の業界が盛り上げればと思います。

＊

今回視察を終え、先ずはこのような機会を頂いたことに御礼申し上げます。

前職で10年前に見た中国と同じような印象を受けました。至る所で大きな開発が行われ、街にはHONDAバイクが溢れ、街中の渋滞、貧富の差…等々。

スクラップはライセンスの問題があり今後も当国へは枠が減らされるのではないかと懸念もありますし、何れは輸出国になるであろうかと…ただその前処理工程や、今後の賃金上昇、経済発展によるゴミ問題、小電や非鉄など途上国では、当たり前の問題ですが、そこに販路拡大の要素は十分にあるかと実感致しました。

＊

今回ベトナム視察に鯖年会メンバーと行けた事、大変感謝しております。今後、スクラップ業界は厳しくなると思います。そんな中、皆様と情報、意見交換していきながら、盛り上げていければ幸いです。有難う御座いました。

＊

今回、視察に参加させて頂きありがとうございました。鯖年会という若手の集まりに参加し始めて間もない中、同年代の同業者の方々と交流を深める事が出来たのが1番の収穫だと思っています。

また日々の業務を通じて感じたことは、加工設備の有無、発生するスクラップの品種（雑品は無く、修理などして再利用）解体くずがほぼ発生していないなど、環境の違いはありますが、メーカー・問屋の鉄スクラップの品質が高かったことです。訪問先でも手作業で仕分けを行っており、より素材化している様に感じました。

日本産のスクラップの品質問題が起こっている今、今後の更なる需要が見込まれる他国に対し、いつでも安定した品質の製品を提供できる状況になれる様に、出来るだけ早く取り組む必要があると感じました。その為には、加工方法もそうですが、営業として購入する品物の問題でもあり、品質管理に必要なコストの見直し、発生元との関係を築いていく必要があると改めて感じました。その為にも、今回参加した方々を含め、お互いにより良いサイクル環境を構築していけるように、今後も情報のやり取り等をしていきたいと思いました。

＊

プラス要因

- ・ 大型高炉の稼働
- ・ 電炉、高炉、誘導炉の新設計画があり生産能力が増加する見通し
- ・ 輸入ライセンスの問題から国内スクラップ 屑の高騰、発生も増えていない様子
(一部カボジャから流れてきている。)

マイナス要因

- ・ ベトナムには電炉・高炉のほかに誘導炉がありますが、誘導炉は輸入鉄スクラップ があまり適していない為国内発生屑を使用している。
- ・ 輸入ライセンスの取得が難しくなっている。
将来的には現地鉄鋼メーカーのみ保有する見通し
- ・ 規定によりダスト混入割合を 1%以下に抑える必要がある。
(スクラップ＝産業廃棄物とみられている。)

上記要因から国内鉄鋼メーカーの需要の増加が予想されるが国内スクラップ 屑では補えないことも予想され輸入スクラップ 屑の期待は高まる一方、輸入ライセンス等の問題からベトナムに輸出することが非常に難しくなることが予想される。

しかし個人的な見解では「重要＞輸入環境」と感じました。課題は山積みではあるがこれから長期間にわたりベトナムへ輸出し続けることは十分に可能性があると考えています。

＊

事前勉強会を通して、今回ベトナム視察の個人的テーマとしてベトナムの環境規制状況・バース状況・交通事情・今後のスクラップなどを学びたいと考えていました。環境規制に関しては、政府が様々な環境規制などを行っても、政府機関以外は、現状のベトナムではなかなか規制が守れない状況で形骸化するのではないかと感じました。今回の視察を通して、業者も人もまた、環境規制などを考えるレベルに達していないと感じました。

また、バース状況などでの滞船問題は深刻で通関にかなりの時間がかかり、スクラップのダストの検定も政府機関が行い、基準があいまいという話も聞きました。

訪問する際に、ベトナムの鉄鋼需要は今後伸びていくので、スクラップの購入はかなり伸びていくのではという考えでいましたが、今回のベトナム視察を通して今後スクラップ納入を伸ばすには、クリアすべき課題がかなりあるのではと感じました。

視察先での鎔年会員（写真）



